

# 問題解答

## 8. 章

### 問 8-1-1.

$$1) \quad \theta = \frac{2\pi}{360^\circ} \Theta = \frac{2\pi}{360^\circ} \times 60^\circ = \frac{\pi}{3} \text{ rad.}$$

$$2) \quad \theta = \frac{2\pi}{360^\circ} \times 150^\circ = \frac{10\pi}{12} = \frac{5\pi}{6} \text{ rad.}$$

$$3) \quad \theta = \frac{2\pi}{360^\circ} \times 225^\circ = \frac{10\pi}{8} = \frac{5\pi}{4} \text{ rad.}$$

$$4) \quad \Theta = \frac{360^\circ}{2\pi} \theta = \frac{360^\circ}{2\pi} \times \frac{\pi}{6} = \frac{360^\circ}{12} = 30^\circ.$$

$$5) \quad \Theta = \frac{360^\circ}{2\pi} \times 1.5\pi = (180 + 90)^\circ = 270^\circ$$

$$6) \quad \Theta = \frac{360^\circ}{2\pi} \times 2.75\pi = (720 + 135)^\circ = 855^\circ.$$

### 問 8-1-2.

$$1) \quad \ell = r\theta = 4 \times \frac{\pi}{4} = \pi = 3.1415 \sim 3.1 \text{ m.}$$

$$2) \quad \ell = r\theta = 4 \times \frac{5\pi}{6} = \frac{10\pi}{3} = 10.381 \sim 10 \text{ m.}$$

$$3) \quad \ell = r\theta = 4 \times \left(\frac{2\pi}{360^\circ} \times 225^\circ\right) = 4 \times \frac{5\pi}{4} = 5\pi = 15.708 \sim 16 \text{ m.}$$

$$4) \quad \ell = r\theta = 4 \times \left(\frac{2\pi}{360^\circ} \times 330^\circ\right) = 4 \times \frac{11\pi}{6} = \frac{22\pi}{3} = 23.038 = 23 \text{ m.}$$

### 問 8-1-3.

$$1) \quad \text{周期 } T = \frac{\text{回転に要した時間}}{\text{回転した数}} = \frac{20 \text{ s}}{50 \text{ 回}} = 0.4 \text{ s.}$$

$$2) \quad \text{回転数 } f = \frac{\text{回転した数}}{\text{回転に要した時間}} = \frac{50 \text{ 回}}{20 \text{ s}} = 2.5 [1/\text{s}=\text{Hz}].$$

$$3) \quad \text{回転数 } f = \frac{1}{T} \text{ より, 右辺を計算すると, 右辺} = \frac{1}{0.4 \text{ s}} = 2.5 \text{ 1/s} = \text{左辺, したがって, (8-1-5)式は成立.}$$

または, 上の 1)と 2)の導出した式で, 分子と分母が逆になっているので, (8-1-5)式のように逆数で表すことができる.

$$4) \quad \text{一周の長さ } L = 2\pi r = 10\pi = 31.745 \sim 32 \text{ m.}$$

$$5) \quad 1 \text{ 秒間当たり } 2.5 \text{ 回転, すなわち, } 2.5 \times 2\pi = 5\pi \text{ だけ回転するので, } 10 \text{ 秒間の回転角は } 50\pi [\text{rad}].$$

### 問 8-1-4.

$$1) \quad \text{弧の長さ } \ell = r\theta = 5 \times \left(\frac{2\pi}{360^\circ} \times 60^\circ\right) = 5 \times \frac{\pi}{3} = 5.236 \sim 5.2 \text{ m}$$

$$2) \quad 2.5 \text{ 秒で } 60^\circ \text{ 回転したのだから, } 360^\circ \text{ 回転するためにはその } 6 \text{ 倍の時間が必要となる. 周期 } T = 6 \times 2.5 = 15 \text{ s,}$$
$$\text{回転数 } f = 1/T = 1/15 = 0.066667 \sim 0.067 \text{ Hz, 角速度 } \omega = 2\pi/T = 2\pi/15 = 0.41887 \sim 0.42 \text{ rad/s,}$$
$$\text{速さ } v = r\omega = 5 \times (2\pi/15) = 2\pi/3 = 2.09433 \sim 2.1 \text{ m/s.}$$

$$3) \quad \text{周期, 回転数, 角速度は回転半径によらないので変わらない. 動いた距離と速さは半径に比例するので } 2 \text{ 倍になる.}$$

問 8-1-5.

$$\text{周期 } T = \frac{\text{回転に要した時間}}{\text{回転した数}} = \frac{4 \times 60 \text{ s}}{120 \text{ 回}} = 2.0 \text{ s}, \quad \text{回転数 } f = \frac{120 \text{ 回}}{4 \times 60 \text{ s}} = 0.5 \text{ Hz},$$

$$\text{角速度(大きさ)} \omega = 2\pi f = \pi = 3.1415 \sim 3.1 \text{ rad/s}, \quad \text{速さ } v = r\omega = 0.2 \times \pi = 0.6283 \sim 0.63 \text{ m/s}.$$

問 8-2-1.

- 1)  $60^\circ$  回転するのに、2.5 秒要したので、 $360^\circ$  回転するにはその 6 倍、すなわち  $6 \times 2.5 = 15$  秒要する。→ 周期  $T = 15 \text{ s}$ ,  
角速度  $\omega = 2\pi f = 2\pi/T = 2\pi/15 = 0.418867 \sim 0.42 \text{ rad/s}$  となるので、速さ  $v = r\omega = 10\pi/15 = 2.0943 \sim 2.1 \text{ m/s}$ ,  
加速度の大きさ  $a = r\omega^2 = 20\pi^2/15^2 = 0.87725 \sim 0.88 \text{ m/s}^2$ .
- 2) 速さ  $v = r\omega$ , 加速度の大きさ  $a = r\omega^2$  と半径  $r$  に比例するので、それぞれ 2 倍になる。
- 3) 2.5 秒間に  $90^\circ$  回転する場合、周期  $T = (360^\circ/90^\circ) \times 2.5 = 10 \text{ s}$  で  $2/3$  倍になり、角速度  $\omega = 2\pi/T = 2\pi/10$  と  $3/2$  倍となる。  
この場合、速さ  $v$  は角速度  $\omega$  に比例するので、 $3/2 = 1.5$  倍となり、加速度の大きさ  $a$  は  $(3/2)^2 = 2.25$  倍となる。  
一方、2.5 秒間に  $120^\circ$  の回転する場合、周期  $T = (360^\circ/120^\circ) \times 2.5 = 7.5 \text{ s}$  で  $1/2$  倍になり、角速度  $\omega = 2\pi/7.5$  と 2 倍となり、速さ  $v$  は 2 倍となり、加速度の大きさ  $a$  は  $2^2 = 4$  倍となる。

問 8-2-2. 4 分間で 180 回転するので、周期  $T = (4 \times 60 \text{ s})/180 \text{ 回} = 1.33333 \text{ s}$ , 回転数  $f = 1/T = 0.75 \text{ Hz}$ , 速さ  $v = r\omega$   
 $= 0.2 \times (2\pi \times 0.75) = 0.3\pi = 0.9425 \sim 0.94 \text{ m/s}$ , 加速度の大きさ  $a = r\omega^2 = 0.2 \times (2\pi \times 0.75)^2 = 0.45\pi^2 = 4.4413 \sim 4.4 \text{ m/s}^2$ .

問 8-3-1.

- 1) 2.5 秒で  $45^\circ$  回転するので、周期  $T = (360^\circ/45^\circ) \times 2.5 = 20 \text{ s}$ , 向心力の大きさ  $F = m r \omega^2 = m r (2\pi/T)^2 = 4 \times 5 \times (2\pi/20)^2 = \pi^2/5 = 1.9738 \sim 2.0 \text{ N}$ , 向心力の向きは中心方向。
- 2) 2.5 秒で  $90^\circ$  回転するとき、周期  $T = 10 \text{ s}$ , 向心力の大きさ  $F = m r (2\pi/T)^2 = 4 \times 5 \times (2\pi/10)^2 = 7.8952 \sim 7.9 \text{ N}$ ,  
2.5 秒で  $120^\circ$  回転するとき、周期  $T = 7.5 \text{ s}$ , 向心力の大きさ  $F = m r (2\pi/T)^2 = 4 \times 5 \times (2\pi/7.5)^2 = 14.0359 \sim 14 \text{ N}$ .

問 8-3-2. 3 分間で 90 回転するので、周期  $T = (3 \times 60)/90 = 2.0 \text{ s}$ , 向心力の大きさ  $F = m r \omega^2 = m r (2\pi/T)^2 = 0.2 \times 0.8 \times (2\pi/2)^2 = 1.5790 \sim 1.6 \text{ N}$ .

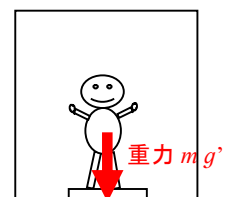
問 8-3-3.

- 1) 太陽と地球の間の万有引力
- 2) 自転車のタイヤと地面の間の摩擦力
- 3) ブランコのワイヤーの張力
- 4) 陽子と電子の間の静電気力(クーロン力)
- 5) ルーレット上にいるボールに働く垂直抗力

問 8-4-1.

- 1) 慣性力の大きさ  $F = ma = 50 \times 1.2 = 60 \text{ N}$ , 下向き, 人に働く合力の大きさ  $= F + mg$   
 $= m(a + g) = m(1.2 + 9.8) = mg' = 50 \times 11 = 550 \text{ N}$ .

このエレベータと同期している座標系(エレベータとともに移動している座標系)で見ると、エレベータ内にいる人には重力加速度  $g'$  による重力  $mg' = m \times 11 \text{ [N]}$  が作用していることと同じである(エレベータの外の景色が見えないと、中の人は加速度運動しているかどうか判断できない)。



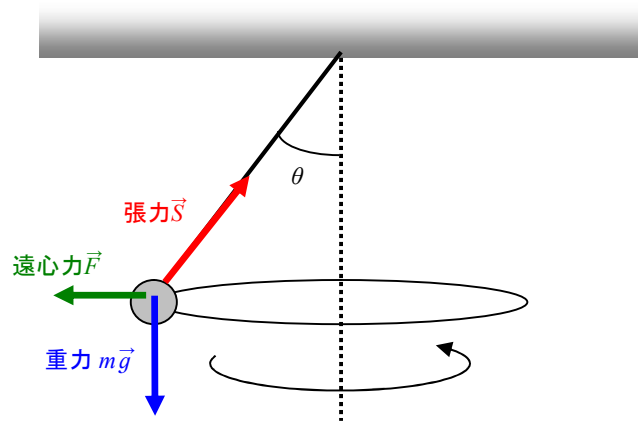
- 2) 慣性力の大きさ  $F = ma = 50 \times 2.3 = 115 \text{ N}$ , 上向き, 人に働く合力の大きさ  $= F + mg = m(-a + g) = 50 \times 7.5 = 375 \text{ N}$ .
- 3) 慣性力の大きさ  $F = ma = 50 \times 9.8 = 490 \text{ N}$ , 上向き, 人に働く合力の大きさ  $= F + mg = m(-a + g) = 50 \times 0 = 0.0 \text{ N}$ .
- 自由落下しているエレベータ内にいる人には, 力が働かず, 無重量状態(実質的に重力が働かない状態)になる.

問 8-4-2.

- 1) 鉛直方向の力のつり合いより, 「 $S \cos \theta = mg$ 」  
より, 張力の大きさ  $S = mg / \cos \theta$ .
- 2) 回転半径  $R = \ell \sin \theta$ .
- 3) 円運動している物体とともに円運動する座標系  
から見ると物体には, 張力, 重力, 遠心力が働  
いていて 3 つの力がつりあっているので, 物体  
は移動していないことになる. 水平方向の力の  
つり合いより, 遠心力の大きさ  $F = S \sin \theta = mg \tan \theta$ .
- 4) 回転半径を  $R$  として, 遠心力の大きさ  $F = mR\omega^2$

$$\text{より, 角速度の大きさ } \omega = \sqrt{\frac{F}{mR}} = \sqrt{\frac{mg \tan \theta}{m \ell \sin \theta}}$$

$$= \sqrt{\frac{g}{\ell \cos \theta}}.$$



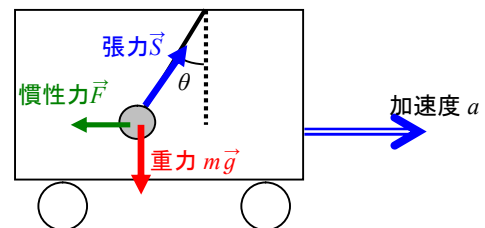
問 8-4-3.

- 1) 角速度  $\omega = 2\pi/T = 2\pi/4.0 = \pi/2 = 1.5708 \sim 1.6 \text{ rad/s}$ .
- 2) このとき, 遠心力と最大静止摩擦力はつりあっている. 最大静止摩擦力  $F_0 = mr\omega^2 = 0.5 \times 0.4 \times (\pi/2)^2 = 0.05\pi^2 = 0.49348 \sim 0.49 \text{ N}$ .
- 3) 垂直抗力の大きさ  $N$  とすると, 最大静止摩擦力  $F_0 = \mu N$  より, 静止摩擦係数  $\mu = F_0/N = 0.05\pi^2/(0.5 \times 9.8) = 0.1007 \sim 0.10$ .

問 8-4-4. バス内にいる人がひもにつるされたおもりをみると,

おもりには, 重力  $m\vec{g}$ , 張力  $\vec{S}$ , 慣性力  $\vec{F}$  が働いて,  
3 つの力がつりあっている. 水平方向のつり合い  
より, 「 $F = S \sin \theta$ 」, 鉛直方向のつり合いより,  
「 $mg = S \cos \theta$ 」が成り立つ.

- 1) 鉛直方向のつり合いより, 張力の大きさ  $S = mg / \cos \theta$   
で, 慣性力の大きさ  $F = ma$  から, 加速度の大きさ  $a$   
 $= F/m = S \sin \theta / m = (mg / \cos \theta) \sin \theta / m = g \sin \theta / \cos \theta = g \tan \theta$ .
- 2) 張力の大きさ  $S = mg / \cos \theta$ .
- 3) 慣性力の大きさ  $F = ma = mg \tan \theta$ .

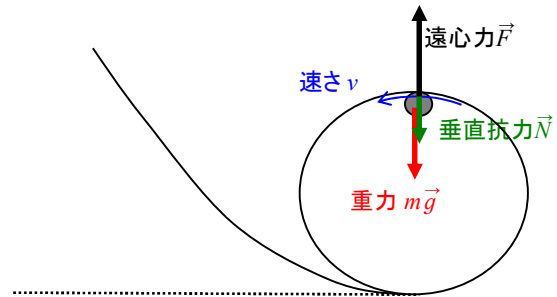


問 8-4-5.

半径  $r$  の円周上の最高点に到達したときの速さを  $v$  とする。力学的エネルギー保存則より、高さ  $h$  の状態と半径  $r$  の円周上の最高点に到達したときの状態で次の式が成り立つ。「 $mgh = mv^2/2 + mgr$ 」 ①」

また、頂点では図のように、物体には重力  $m\vec{g}$ 、面が垂直に押す力(垂直抗力)  $\vec{N}$ 、遠心力  $\vec{F}$ (遠心力の大きさ  $F = mv^2/r$ ) が働き、つりあっている(ここで、曲面を滑らかに回るためには垂直抗力の大きさ  $N$  が正となる  $\rightarrow N > 0$ )

$$-mg - N + F = -mg - N + mv^2/r = 0, \quad \text{②}$$



②式より、 $mv^2 = (mg + N)r$  となり、これを①式に代入し、高さ  $h$  の最小値を求める(垂直抗力の大きさ  $N > 0$ )。

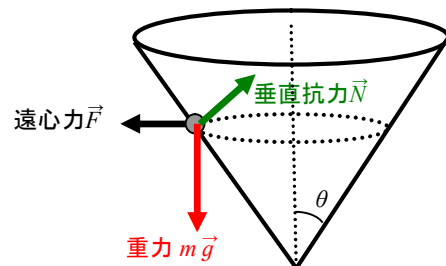
$$h = r/2 + N/(2mg) + 2r > r/2 + 2r = 5r/2.$$

#### 問 8-4-6.

- 1) ばねの伸びを  $\ell$  とすると、重力とばねの弾性力がつりあうので、「 $mg = k\ell$ 」より、ばねの伸び  $\ell = mg/k$ 。
- 2) このときのばねの伸びを  $\ell'$  とする。エレベータとともに動く系で考えると、慣性力は下向きに働き、重力(下向き)、慣性力(下向き)、弾性力(上向き)がつりあっている。「 $mg + ma = k\ell'$ 」より、ばねの伸び  $\ell' = m(g+a)/k$ 。
- 3) このときのばねの伸びを  $\ell''$  とする。エレベータとともに動く系で考えると、慣性力は上向きに働き、重力(下向き)、慣性力(上向き)、弾性力(上向き)がつりあっている。「 $mg = k\ell'' + ma$ 」より、ばねの伸び  $\ell'' = m(g-a)/k$ 。

#### 問 8-4-7.

- 1) 図より、 $\tan \theta = R/h$  より、回転半径  $R = h \tan \theta$ 。
- 2) 円運動している座標系から見ると、図のように重力、垂直抗力、遠心力が働き、つりあっている。  
水平方向の力のつり合いより、「 $F = N \cos \theta$ 」 ①  
鉛直方向の力のつり合いより、「 $mg = N \sin \theta$ 」 ②  
②式を①式に代入すると、遠心力の大きさ  $F = mg \cos \theta / \sin \theta$ 。
- 3) 遠心力の大きさ  $F = mR\omega^2 = mR(2\pi/T)^2$  より、周期  $T$  は下の式のように求めることができる。



$$T = 2\pi \sqrt{\frac{mR}{F}} = 2\pi \sqrt{\frac{m h \tan \theta \sin \theta}{mg \cos \theta}} = \frac{2\pi}{\cos \theta} \sqrt{\frac{h}{g}}.$$

(角度  $\theta = 0$  なら、回転半径が無限大になり、周期も無限大となる)

#### 問 8-5-1.

地球の自転の周期  $T_1$  は 24 時間なので、回転数  $f_1$  と角速度  $\omega_1$  は下の値となる。

$$T_1 = 24 \text{ h} = 24 \times 3600 \text{ s} = 8.64 \times 10^4 \text{ s}, f_1 = 1/T_1 = 1.1574 \times 10^{-5} \sim 1.2 \times 10^{-5} \text{ Hz}, \omega_1 = 2\pi f_1 = 3.6361 \times 10^{-5} \sim 3.6 \times 10^{-5} \text{ rad/s}.$$

地球の公転の周期  $T_2$  はおよそ 365.25 日なので、回転数  $f_2$  と角速度  $\omega_2$  は下の値となる。

$$T_2 = 365.25 \times 24 \times 3600 = 3.15576 \times 10^7 \sim 3.2 \times 10^7 \text{ s}, f_2 = 1/T_2 = 3.16881 \times 10^{-8} \sim 3.2 \times 10^{-8} \text{ Hz}, \omega_2 = 1.9910 \times 10^{-7} \sim 2.0 \times 10^{-7} \text{ rad/s}.$$

問 8-5-2.

- 1) 周期  $T=3.16 \times 10^7$  s, 回転半径  $R=1.50 \times 10^{11}$  m を(8-5-1)式に代入する. 定数  $C=T^2/R^3=2.96587 \times 10^{-19}$   
 $\sim 2.96 \times 10^{-19} \text{ s}^2/\text{m}^3$ .
- 2) (8-5-4)式と(8-5-6)式から太陽の質量  $M=4\pi^2/(CG)=4\pi^2/(1.9788 \times 10^{-29})=1.979 \times 10^{30} \sim 2.0 \times 10^{30} \text{ kg}$ .
- 3) ケプラーの第3法則より, 「 $T^2/R^3 = \text{一定}$ 」より,  $T^2/R^3 = T'^2/R'^3 = T'^2/(2R)^3, \rightarrow (T'/T)^2 = 8, \rightarrow$   
 $T' = \sqrt{8} T = 2.828T \sim 2.8T$ .

問 8-5-3. (8-5-5)式で表された万有引力の式が地表における重力に等しいとして, 地球の半径  $R$  を用いると, 下の式が成り立つ.

$$mg = G \frac{Mm}{R^2} \quad \rightarrow \quad g = G \frac{M}{R^2}.$$

問 8-5-4.

- 1) 問 8-5-3 の結果より, 地球の質量  $M_{\text{地球}} = g R^2/G = 9.807 \times (6.380 \times 10^6)^2 / (6.674 \times 10^{-11}) = 5.981 \times 10^{24} \sim 5.98 \times 10^{24} \text{ kg}$ .
- 2) 月における重力が万有引力によるものだとする. 月の質量  $M_{\text{月}} = (g/6) R_{\text{月}}^2/G = (9.807/6) \times (1.740 \times 10^6)^2 / (6.674 \times 10^{-11})$   
 $= 7.414 \times 10^{22} \sim 7.41 \times 10^{22} \text{ kg}$ .
- 3) 月は地球の周りを 27 日 7 時間 43 分で一周する. 周期  $T = 27 \times 24 \times 3600 + 7 \times 3600 + 43 \times 60 = 2332800 + 25200 + 2580$   
 $= 2360580 \sim 2.36 \times 10^6 \text{ s}$ . 角速度  $\omega = 2\pi/T = 2.662 \times 10^{-6} \sim 2.66 \times 10^{-6} \text{ rad/s}$ .
- 4) 「地球と月の万有引力=月の向心力」より求める. 地球と月の間の距離を  $r$  とし, 地球の質量  $M$ , 月の質量  $m$  とする.

$$\rightarrow G \frac{Mm}{r^2} = m r \omega^2 \quad \rightarrow \quad r = \sqrt[3]{\frac{GM}{\omega^2}} = (6.674 \times 10^{-11} \times 5.981 \times 10^{24} / (2.662 \times 10^{-6})^2)^{1/3}$$

$$= (5.633 \times 10^{25})^{1/3} = 3.833 \times 10^8 \sim 3.83 \times 10^8 \text{ m} = 3.83 \times 10^5 \text{ km}.$$

## 9. 章

問 9-0-1.  $\vec{a} \cdot \vec{b} = |\vec{a}| |\vec{b}| \cos \theta$ ,  $|\vec{a} \times \vec{b}| = |\vec{a}| |\vec{b}| \sin \theta$  より計算する.

- 1)  $\vec{a} \cdot \vec{b} = 4 \times \sqrt{3} \times 1/2 = 2\sqrt{3}$ ,  $|\vec{a} \times \vec{b}| = 4 \times \sqrt{3} \times \sqrt{3}/2 = 6$ .
- 2)  $\vec{a} \cdot \vec{b} = 4 \times 2\sqrt{2} \times 0 = 0$ ,  $|\vec{a} \times \vec{b}| = 4 \times 2\sqrt{2} \times 1 = 8\sqrt{2}$ .
- 3)  $\vec{a} \cdot \vec{b} = 2 \times 3\sqrt{2} \times (-\sqrt{2}/2) = -6$ ,  $|\vec{a} \times \vec{b}| = 2 \times 3\sqrt{2} \times (\sqrt{2}/2) = 6$ .
- 4)  $\vec{a} \cdot \vec{b} = \sqrt{3} \times 2 \times (-\sqrt{3}/2) = -3$ ,  $|\vec{a} \times \vec{b}| = \sqrt{3} \times 2 \times 1/2 = \sqrt{3}$ .

問 9-0-2.

$$1) \quad \vec{a} \cdot \vec{b} = a_x b_x + a_y b_y + a_z b_z = 3 \times (-2) + 1 \times 1 + 0 \times 2 = -6 + 1 + 0 = -5,$$

$$\vec{a} \times \vec{b} = \begin{vmatrix} \vec{e}_x & \vec{e}_y & \vec{e}_z \\ 3 & 1 & 0 \\ -2 & 1 & 2 \end{vmatrix} = (2-0) \vec{e}_x + (0-6) \vec{e}_y + (3+5) \vec{e}_z = (2, -6, 8).$$

$$2) \quad \vec{a} \cdot \vec{b} = 1 \times (-2) + 1 \times (-1) + 2 \times 0 = -2 + (-1) + 0 = -3, \quad \vec{a} \times \vec{b} = \begin{vmatrix} \vec{e}_x & \vec{e}_y & \vec{e}_z \\ 1 & 1 & 2 \\ -2 & -1 & 0 \end{vmatrix} = (0+2) \vec{e}_x + (-4-0) \vec{e}_y + (-1+2) \vec{e}_z = (2, -4, 1).$$

$$3) \quad \vec{a} \cdot \vec{b} = -2 + (-2) + (-8) = -12,$$

$$\vec{a} \times \vec{b} = \begin{vmatrix} \vec{e}_x & \vec{e}_y & \vec{e}_z \\ 1 & -1 & 2 \\ -2 & 2 & -4 \end{vmatrix} = (4-4) \vec{e}_x + (-4-(-4)) \vec{e}_y + (2-2) \vec{e}_z = (0, 0, 0). \quad (\vec{a} // \vec{b} \text{なので, } \vec{a} \times \vec{b} = 0)$$

$$4) \quad \vec{a} \cdot \vec{b} = -3 + (-2) + (-3) = -8, \quad \vec{a} \times \vec{b} = \begin{vmatrix} \vec{e}_x & \vec{e}_y & \vec{e}_z \\ -3 & -2 & -1 \\ 1 & 2 & 3 \end{vmatrix} = (-6+2) \vec{e}_x + (-1+9) \vec{e}_y + (-6+2) \vec{e}_z = (-4, 8, -4).$$

$$5) \quad \vec{a} \cdot \vec{b} = -2 + 1 + 0 = -1, \quad \vec{a} \times \vec{b} = \begin{vmatrix} \vec{e}_x & \vec{e}_y & \vec{e}_z \\ 1 & 1 & 0 \\ -2 & 1 & 0 \end{vmatrix} = \begin{vmatrix} 1 & 1 \\ -2 & 1 \end{vmatrix} \vec{e}_z = (1+2) \vec{e}_z = (0, 0, 3).$$

$$6) \quad \vec{a} \cdot \vec{b} = -2 - 1 + 0 = -3, \quad \vec{a} \times \vec{b} = \begin{vmatrix} \vec{e}_x & \vec{e}_y & \vec{e}_z \\ 1 & -1 & 0 \\ -2 & 1 & 0 \end{vmatrix} = \begin{vmatrix} 1 & -1 \\ -2 & 1 \end{vmatrix} \vec{e}_z = (1-2) \vec{e}_z = (0, 0, -1).$$

問 9-0-3. (9-0-15)式と(9-0-16)式より,  $\vec{b} \times \vec{c} = \begin{vmatrix} \vec{e}_x & \vec{e}_y & \vec{e}_z \\ b_x & b_y & b_z \\ c_x & c_y & c_z \end{vmatrix} = (b_y c_z - b_z c_y) \vec{e}_x + (b_z c_x - b_x c_z) \vec{e}_y + (b_x c_y - b_y c_x) \vec{e}_z$

なので, 上のベクトルと $\vec{a}$ との内積「 $\vec{a} \cdot (\vec{b} \times \vec{c})$ 」は次の式のように表すことができる.

$$\vec{a} \cdot (\vec{b} \times \vec{c}) = (a_x \vec{e}_x + a_y \vec{e}_y + a_z \vec{e}_z) \cdot ((b_y c_z - b_z c_y) \vec{e}_x + (b_z c_x - b_x c_z) \vec{e}_y + (b_x c_y - b_y c_x) \vec{e}_z)$$

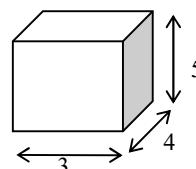
$$= (b_y c_z - b_z c_y) a_x + (b_z c_x - b_x c_z) a_y + (b_x c_y - b_y c_x) a_z = \begin{vmatrix} a_x & a_y & a_z \\ b_x & b_y & b_z \\ c_x & c_y & c_z \end{vmatrix}$$

問 9-0-4. 行列の基本変形より,  $\vec{a} \cdot (\vec{b} \times \vec{c}) = \vec{b} \cdot (\vec{c} \times \vec{a}) = \vec{c} \cdot (\vec{a} \times \vec{b})$  が成立する.

$$\begin{vmatrix} a_x & a_y & a_z \\ b_x & b_y & b_z \\ c_x & c_y & c_z \end{vmatrix} = \begin{vmatrix} b_x & b_y & b_z \\ c_x & c_y & c_z \\ a_x & a_y & a_z \end{vmatrix} = \begin{vmatrix} c_x & c_y & c_z \\ a_x & a_y & a_z \\ b_x & b_y & b_z \end{vmatrix}.$$

問 9-0-5.

$$\vec{c} \cdot (\vec{a} \times \vec{b}) = \begin{vmatrix} c_x & c_y & c_z \\ a_x & a_y & a_z \\ b_x & b_y & b_z \end{vmatrix} = \begin{vmatrix} 0 & 0 & 5 \\ 3 & 0 & 0 \\ 0 & 4 & 0 \end{vmatrix} = 3 \times 4 \times 5 = 60,$$

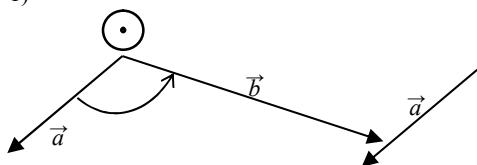


1 辺の長さが,  $3 \times 4 \times 5$  の立方体の体積

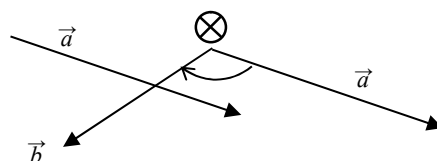
問 9-0-6.  $\vec{a} \cdot (\vec{b} \times \vec{a}) = \begin{vmatrix} a_x & a_y & a_z \\ b_x & b_y & b_z \\ a_x & a_y & a_z \end{vmatrix} = 0.$  (1 行目と 3 行目が同じなので, 行列の基本変形より, 行列式は「0」となる).

問 9-0-7. 下の平面上のベクトル  $\vec{a}$  と  $\vec{b}$  について外積  $\vec{a} \times \vec{b}$  の向きを記号「 $\odot$ 」または「 $\otimes$ 」で表せ.

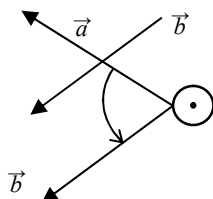
1)



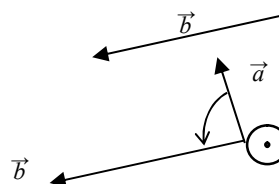
2)



3)



4)



問 9-1-1.

1) 回転数  $f = 4/2 = 2.0$  Hz,

角速度  $\omega = 2\pi f = 4\pi = 12.566 \sim 13$  rad/s.

2) 物体 A の速さ  $v_A = r_A \omega = 0.8\pi = 2.5137 \sim 2.5$  m/s,

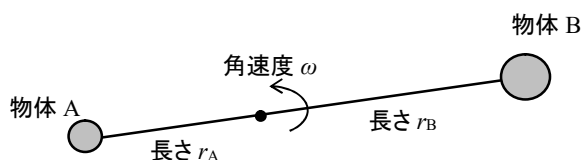
物体 B の速さ  $v_B = r_B \omega = 1.2\pi = 3.7699 \sim 3.8$  m/s.

3) 物体 A の運動量の大きさ  $p_A = m_A v_A = 1.6\pi = 5.0265 \sim 5.0$  kg m/s,

物体 B の運動量の大きさ  $p_B = m_B v_B = 4.8\pi = 15.0796 \sim 15$  kg m/s.

4) 物体 A の角運動量の大きさ  $L_A = r_A p_A = 0.32\pi = 1.00531 \sim 1.0$  kg m<sup>2</sup>/s,

物体 B の角運動量の大きさ  $L_B = r_B p_A = 1.44\pi = 4.5239 \sim 4.5$  kg m<sup>2</sup>/s.



問 9-1-2.

時刻  $t = 0 \text{ s}$  での物体 A の位置  $\vec{r}_A = (4.0, 0, 0) \text{ m}$ , 物体 B の位置  $\vec{r}_B = (0, 4.0, 0) \text{ m}$ ,

$$\text{物体 A の角運動量 } \vec{L}_A = m_A (\vec{r}_A \times \vec{v}_A) = 2 \begin{vmatrix} \vec{e}_x & \vec{e}_y & \vec{e}_z \\ 4 & 0 & 0 \\ 0 & 2 & 0 \end{vmatrix} = 2 \cdot 8 \vec{e}_z = 16 \vec{e}_z = (0, 0, 16) \text{ kg m}^2/\text{s},$$

$$\text{物体 B の角運動量 } \vec{L}_B = m_B (\vec{r}_B \times \vec{v}_B) = 3 \begin{vmatrix} \vec{e}_x & \vec{e}_y & \vec{e}_z \\ 0 & 4 & 0 \\ 4 & 0 & 0 \end{vmatrix} = 3 \cdot (-16) \vec{e}_z = -48 \vec{e}_z = (0, 0, -48) \text{ kg m}^2/\text{s},$$

時刻  $t = 1 \text{ s}$  での物体 A の位置  $\vec{r}_A = (4.0, 0, 0) + \vec{v}_A \times 1 \text{ s} = (4.0, 2.0, 0) \text{ m}$ ,

物体 B の位置  $\vec{r}_B = (0, 4.0, 0) + \vec{v}_B \times 1 \text{ s} = (4.0, 4.0, 0) \text{ m}$ ,

$$\text{物体 A の角運動量 } \vec{L}_A = m_A (\vec{r}_A \times \vec{v}_A) = 2 \begin{vmatrix} \vec{e}_x & \vec{e}_y & \vec{e}_z \\ 4 & 2 & 0 \\ 0 & 2 & 0 \end{vmatrix} = 2 \cdot 8 \vec{e}_z = 16 \vec{e}_z = (0, 0, 16) \text{ kg m}^2/\text{s},$$

$$\text{物体 B の角運動量 } \vec{L}_B = m_B (\vec{r}_B \times \vec{v}_B) = 3 \begin{vmatrix} \vec{e}_x & \vec{e}_y & \vec{e}_z \\ 4 & 4 & 0 \\ 4 & 0 & 0 \end{vmatrix} = 3 \cdot (-16) \vec{e}_z = -48 \vec{e}_z = (0, 0, -48) \text{ kg m}^2/\text{s},$$

時刻  $t = 2 \text{ s}$  での物体 A の位置  $\vec{r}_A = (4.0, 2.0, 0) + \vec{v}_A \times 1 \text{ s} = (4.0, 4.0, 0) \text{ m}$ ,

物体 B の位置  $\vec{r}_B = (4.0, 4.0, 0) + \vec{v}_B \times 1 \text{ s} = (8.0, 4.0, 0) \text{ m}$ ,

$$\text{物体 A の角運動量 } \vec{L}_A = m_A (\vec{r}_A \times \vec{v}_A) = 2 \begin{vmatrix} \vec{e}_x & \vec{e}_y & \vec{e}_z \\ 4 & 4 & 0 \\ 0 & 2 & 0 \end{vmatrix} = 2 \cdot 8 \vec{e}_z = 16 \vec{e}_z = (0, 0, 16) \text{ kg m}^2/\text{s},$$

$$\text{物体 B の角運動量 } \vec{L}_B = m_B (\vec{r}_B \times \vec{v}_B) = 3 \begin{vmatrix} \vec{e}_x & \vec{e}_y & \vec{e}_z \\ 8 & 4 & 0 \\ 4 & 0 & 0 \end{vmatrix} = 3 \cdot (-16) \vec{e}_z = -48 \vec{e}_z = (0, 0, -48) \text{ kg m}^2/\text{s}.$$

角運動量は一定となる.

問 9-2-1.

$$\text{力のモーメント } \vec{M}_1 = \vec{r}_1 \times \vec{F}_1 = \begin{vmatrix} \vec{e}_x & \vec{e}_y & \vec{e}_z \\ 4 & 1 & 0 \\ 2 & 1 & 0 \end{vmatrix} = \vec{e}_z \begin{vmatrix} 4 & 1 \\ 2 & 1 \end{vmatrix} = 2 \vec{e}_z = (0, 0, 2) \text{ N m},$$

$$\text{力のモーメント } \vec{M}_2 = \vec{r}_2 \times \vec{F}_2 = \begin{vmatrix} \vec{e}_x & \vec{e}_y & \vec{e}_z \\ -2 & -3 & 0 \\ 1 & 1 & 0 \end{vmatrix} = \vec{e}_z \begin{vmatrix} -2 & -3 \\ 1 & 1 \end{vmatrix} = +1 \vec{e}_z = (0, 0, 1) \text{ N m},$$

$$\text{力のモーメント } \vec{M}_3 = \vec{r}_3 \times \vec{F}_3 = \begin{vmatrix} \vec{e}_x & \vec{e}_y & \vec{e}_z \\ -2 & 5 & 0 \\ -1 & 2 & 0 \end{vmatrix} = \vec{e}_z \begin{vmatrix} -2 & -5 \\ -1 & 2 \end{vmatrix} = -9 \vec{e}_z = (0, 0, -9) \text{ N m},$$

力のモーメントの合計  $\vec{M}_{\text{tot}} = \vec{M}_1 + \vec{M}_2 + \vec{M}_3 = (0, 0, -6) \text{ N m}$ ,  $\rightarrow xy$  平面上で時計回り.

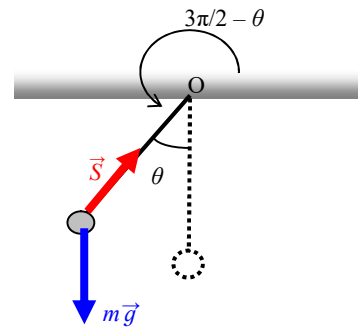
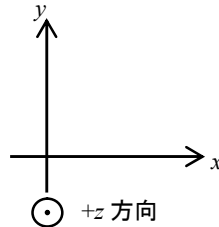


問 9-2-2.

- 1) 平面上で反時計回りの回転を正とすると, 力のモーメントの総和  $= r_1 F_1 + (-r_2 F_2) = 2 \times 4 - 3 F_2 = 0$  より,  
力の大きさ  $F_2 = 8/3 = 2.66666 \sim 2.7 \text{ N}$ .
- 2) 力のモーメントの総和  $= r_1 F_1 + (-r_2 F_2 \sin 150^\circ) = 2 \times 4 - (3 F_2/2) = 0$  より, 力の大きさ  $F_2 = 16/3 = 5.3333 \sim 5.3 \text{ N}$ .

問 9-2-3.

右の図のように力が働いている.



- 1)  $x$  軸から物体が配置している位置までの角度は  $3\pi/2 - \theta$  となるので, 物体の位置  $\vec{r}$  は下の式で表すことができる.

$$\begin{aligned}\vec{r} &= (\ell \cos(3\pi/2 - \theta), \ell \sin(3\pi/2 - \theta), 0) \\ &= (-\ell \sin \theta, -\ell \cos \theta, 0).\end{aligned}$$

- 2) 重力  $m\vec{g} = (0, -mg, 0)$  となるので, 重力による力のモーメント  $\vec{M}_{\text{重力}} = \vec{r} \times m\vec{g} = \begin{vmatrix} \vec{e}_x & \vec{e}_y & \vec{e}_z \\ -\ell \sin \theta & -\ell \cos \theta & 0 \\ 0 & -mg & 0 \end{vmatrix}$

$$= \vec{e}_z \begin{vmatrix} -\ell \sin \theta & -\ell \cos \theta \\ 0 & -mg \end{vmatrix} = \ell mg \sin \theta \vec{e}_z = (0, 0, \ell mg \sin \theta).$$

(あるいは, 位置  $\vec{r}$  と重力  $m\vec{g}$  の間の角度は  $\theta$  なので,  $M_{\text{重力}} = |\vec{r} \times m\vec{g}| = |\vec{r}| \times |m\vec{g}| \sin \theta = \ell mg \sin \theta$ .)

- 3) 張力  $\vec{S} = (S \cos(\pi/2 - \theta), S \sin(\pi/2 - \theta), 0) = (S \sin \theta, S \cos \theta, 0)$  となるので, 張力  $\vec{S}$  による力のモーメント  $\vec{M}_{\text{張力}}$

$$= \vec{r} \times \vec{S} = \begin{vmatrix} \vec{e}_x & \vec{e}_y & \vec{e}_z \\ -\ell \sin \theta & -\ell \cos \theta & 0 \\ S \sin \theta & S \cos \theta & 0 \end{vmatrix} = \vec{e}_z \begin{vmatrix} -\ell \sin \theta & -\ell \cos \theta \\ S \sin \theta & S \cos \theta \end{vmatrix} = 0 = (0, 0, 0).$$

(あるいは, 位置  $\vec{r}$  と張力  $\vec{S}$  は逆向きなので, その間の角度は  $\pi$  なので,  $M_{\text{張力}} = |\vec{r} \times \vec{S}| = |\vec{r}| \times |\vec{S}| \sin \pi = 0$ .)

